
システム広報委員会

－旧CyberRad対応委員会－報告

- CyberRadについて
- JRC2010報告
- その他の広報活動
- 2010年度計画

2010. 11.11



CyberRadとは

- 日本ラジオロジー協会(JRC)は、日本医学放射線学会(JRS)・日本放射線技術学会(JSRT)・日本画像医療システム工業会(JIRA)と連携して 毎年学会や機器展示を実施してきた。2005年からは日本医学物理学界(JSMP)も参加している。
- 1999年より、3者(2005年から4者)合同の学術展示を行っていた⇒ CyberRad
- JRCとして行う継続的な学術展示であり、両学会の学術大会、及び機器展示と同格であった
- 2009年夏に発展的解消

CyberRadは歴史的事実へ



ITEM2010におけるJIRAブースの運営協力

- 医用画像システム部会のコーナ担当
- 展示パネルの作成
活動概要を紹介
- 配布資料作成
JIRA会報掲載記事の別刷り
独自のリーフレットの作成
- ブース来訪者(特に関連官庁)への対応

長期的な標準化推進活動の認知に貢献



展示パネル

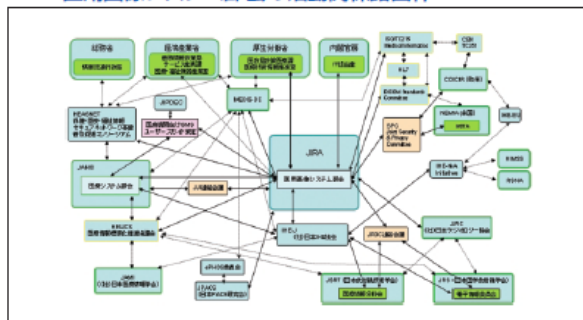
JIRA医用画像システム部会の役割と基本方針

画像医療に関連する情報システム市場の健全な発展に寄与することを目的として、画像医療情報システムに関する医療情報の安全性・相互運用性・品質などの確保に関する標準規格やガイドラインなどの策定と、それらの普及活動および問題解決のための提言活動を行っています。これらの活動は、国内外の関連する団体での活動と積極的に協調し進めています。

主な活動項目

- ☐ 医療情報の安全性確保 (セキュリティ委員会委員会)
- ☐ DICOM規格の保守・管理 (DICOM委員会)
- ☐ モニタ診断の普及推進 (モニタ診断システム委員会)
- ☐ 画像医療システムに関する普及・啓発活動
(システム広報委員会:旧CyberRad 対応委員会)
- ☐ 画像診断レポートの相互運用性確保 (画像診断レポート委員会)
- ☐ 他団体との協調活動
(JIRAホームページ医用画像システム部会ページリンクより)

JIRA医用画像システム部会の活動関係諸団体



DICOMの世界

「DICOMの世界」はJIRA医用画像システム部会がホームページで提供しています。

JIRA会報別刷り

部会・委員会報告

〈医用画像システム部会〉

SPC 会議参加報告



セキュリティ委員会 委員 若原 秀幸 (三菱電機 (株))

1. はじめに

2009年9月29日に JOINT NEMA/COCIR/JIRA SECURITY AND PRIVACY COMMITTEE (以下 SPC) 会議がアメリカのワシントン近郊、ROSSLYN にある NEMA 本部にて開催されたので参加した。ROSSLYN はバージニア州アーリントンの北部にあり、ワシントン DC とは川を挟んだ向かい側にある。ワシントン DC は建物の高さ規制があるため高層建築物は建てられないが、ROSSLYN にはその規制がないため高層建築物が多く、NEMA 本部からもワシントン DC を一望できる。近くにはペンタゴンなどがあり、米国の中心地にいることが実感できる。ワシントン中心部とは地下鉄で直結しており、交通の便も良い。今回、セキュリティ委員長、副委員長の都合がつかず、代理としての参加であったため、自身初めての SPC 会議参加となり、しかも同行者なしの単独出張であったが、ISO/TC215 会議や HL7 SecurityWG 会議などで顔見知りのメンバーが中心であったため、スムーズに会議に入ることが出来た。本報告書では、SPC の概要を説明した上で、最新の議論について説明する。

2. SPCとは

SPC とは、JOINT NEMA/COCIR/JIRA SECURITY AND PRIVACY COMMITTEE という日本 (JIRA)、米国 (NEMA)、欧州 (COCIR) の医療機器工業会が合同で設立している情報セキュリティとプライバシー保護に関する委員会である。主な活動としてはセキュリティとプライバシー保護に関する白書を作成し公表している。JIRA は SPC メンバーとして定期的に会議に参加するとともに、共同で白書の作成に参画している。JIRA のセキュリティ委員会では、SPC において検討されている白書の原案レビューを通じて日本の制度を踏まえた修正案、技術的な課題の指摘や改善要望などを行っている。SPC では現在、以下の白書が公開されており、その翻訳版を JIRA の web ページで公開している。
(<http://www.jira-net.or.jp/commission/system/index.html>)

(1) Defending Medical Information Systems Against Malicious Software

(医療情報システムにおける有害なソフトウェアに対する防御)

有害なソフトウェア (Malicious Software: ウイルス等) に対する防御策を概説したもの

(2) Break-Glass An Approach to Granting Emergency Access to Healthcare Systems

(ブレイクグラス: 医療システムへの緊急アクセスのためのアプローチ)

シリーズ

DICOM の歴史 第1回 -DICOM が生まれてきた背景-



鈴木 真人

JIRA 医用画像システム部会 DICOM 委員会委員長

(東芝メディカルシステムズ (株))

山本 裕

JIRA 医用画像システム部会 CyberRad 対応委員会委員長

(横河電機 (株))

この解説では DICOM 規格がどのようにして生まれたのか・どのように発展してきたのか・今後はどうなるのかを時系列的にご説明していきます。掲載は3回の予定で

第1回: DICOM が生まれてきた背景 (ACR-NEMA 規格 V1 & V2 時代)

第2回: DICOM の発展 (DICOM 規格2008まで)

第3回: DICOM の現状と未来 (最近の DICOM 規格動向と方向性) の予定です。

皆さんはご家庭のテレビでいくつものチャンネルが自由に見られることをすごい技術の進歩だと感じますか? それともそんなこと当たり前だと思いませんか? 誰もチャンネル毎にテレビを買うなんて考えもしないでしょうか。病院の診察室にある PC で CT や CR や内視鏡の画像が自由に見られることも当たり前のことになりつつありますが、そこに至るまでには多くの人の努力があったのです。

医療機器業界に関係している人であれば DICOM という言葉を聞いたことがあると思います。これがテレビ放送局の送り出す電波の規格を統一しているのと同じ様に、医用機器から出てくる画像やレポートの規格を統一しています。

はるか昔(?)の医用画像はその場で直接見るだけでした。X線の直接透視像などをその場で診断しなくてはならず、当時の医師は大変なプレッシャーがあったと思います。それが記録媒体に保存されていつでも何回でも見られるようになりました。その代表がフィルムです。フィルムに記録が始まったときもフィルムの大きさや感度、鮮鋭度などのいろいろな規格を決めたからこそ普及したのです。かなり長い期間フィルムはその地位を不動のものとして画像診断・保存の中心的媒体でした。しかしフィルムに記録できるのはシネ表示に用いられたロールフィルムを含めて静止画だけです。超音波や内視鏡など医用機器が動画を生成するようになると、動画を記録する要望が出てきました。これに応えたのがビデオテープでした。これも家電業界としてビデオテープの規格がきちんと決められていたからこそ応用できた事例です。

医用画像表示用モニタの 品質管理に関するガイドライン (JESRA X-0093²⁰⁰⁵)

医用画像表示用モニタの 品質管理に関するガイドライン JESRA X-0093に関するご質問について

今までにお寄せ頂いた質問の中から代表的なものを編集し「QAガイドラインのFAQ」を作成しました。代表的な質問は、下記の通りです。

これらの質問のお答えは、医用画像システム部会のホームページからダウンロードできます。是非、ご覧ください。

- Q1 QAガイドラインでは基本的には外部光を含まないと管理する方法で説明されていますが、外部光を含めて管理することはできないのでしょうか？
- Q2 QAガイドラインに定められた試験を行うのに必要な機材を教えてください。
- Q3 テストパターンや基準臨床画像がうまく表示できません。画像表示用のソフトについて教えてください。
- Q4 JIRAで公開しているテスト画像を使用しても医用モニタが多数あると試験を行うのに時間がかかるので、効率よく行う方法はありますか？
- Q5 QAガイドラインの適用範囲を教えてください。
- Q6 モタリテ装置付属のモニタにもQAガイドラインは適用されるのでしょうか？
- Q7 世界には様々なモニタ管理のガイドラインや規格がありますが、QAガイドラインとの関係を教えてください。また、DICOM規格との関係についても教えてください。
- Q8 QAガイドラインの英語版はありますか？
- Q9 QAガイドラインについて質問がありますが、どうすれば良いのでしょうか？またQAガイドラインについての講演を依頼する場合、どなたにお願いすればよいのでしょうか？

ring Standards of
化の一環として提案する

モニタの品質管理を行う
(JIRA) のモニタ診断シ
(JSRT) の協力を得て
よ、以下のホームページ

ダウンロードできます。

しました！

お活動は、雑誌などへの



ください。

リーフレット

輸出企業の皆様へ MDS²翻訳版を公開いたします！

■MDS² (Man

MDS²(エムデ
説明書)とは、米
HIMSS²が200
月にNEMA標準

*1: 医療保険の相互

*2: 米国の医療情報

■MDS²の目

医療機器で管理
情報の脆弱性！
セキュリティ対策情

■MDS²の作

米国において
医療機関からの要

■輸出企業の

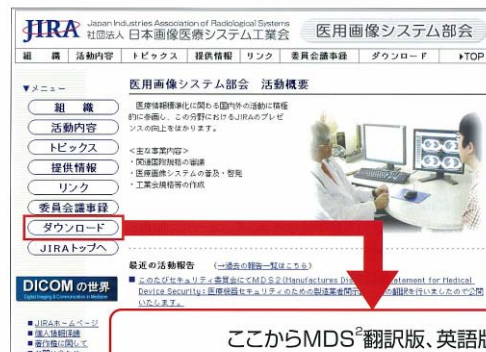
日本から米国に
規則対応が求めら

このたびJIRA
ました。米国事情

■MDS²翻訳

「医用画像シス
のダウンロードア

輸出企業の皆様へ MDS²翻訳版を公開いたします！



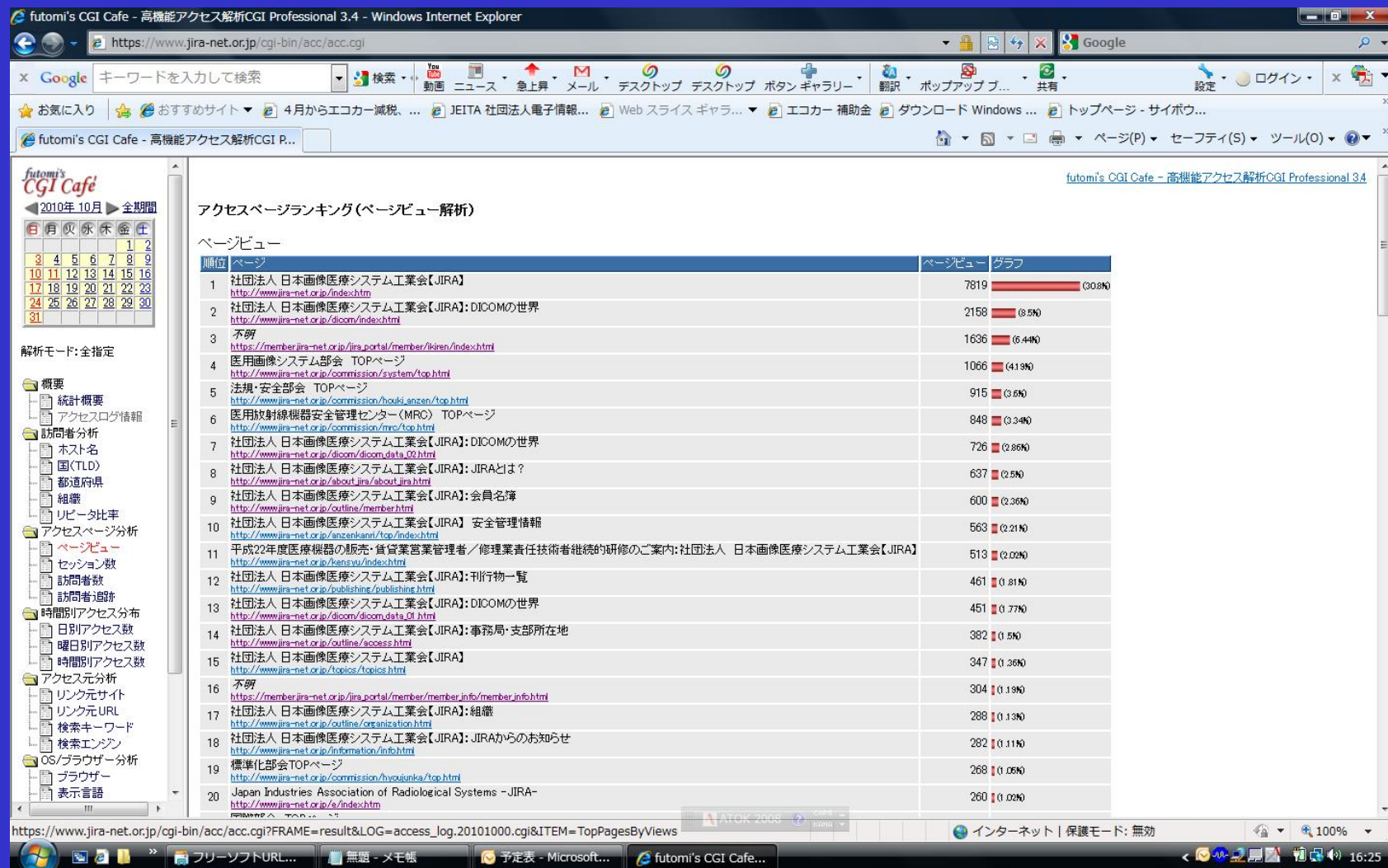
ここからMDS²翻訳版、英語版を
ダウンロードできます。



その他の活動⇒主な活動 2010年から

- JIRAホームページ作成・維持に参画
- 医用画像システム部会業務報告会・勉強会の運営
- 「画像診断機器関連産業20XX」作成編集作業に参画
- 広報活動：
主として厚生労働省、経済産業省、内閣官房の関連部局
- IHE-Jとの連携： ワークショップの実施に参画

JIRAホームページ アクセスのチェック



医用画像システム部会勉強会

- 2008年度から主催がCyberRad対応委員会の担当となった。
- CyberRad対応委員会主催特別講演会「検像システム」 2009. 3.12
- 勉強会「検像システム2」 2010. 3.11
- いずれも40人の定員満席状態
- 概要は、JIRA会報の部会活動報告に掲載
- まとめて英文化し、JIRA Activity Report から世界へ発信
http://www.jira-net.or.jp/radiology_japan/rj/04.html#05

「画像診断機器関連産業20XX」

- JIRA広報委員会が主とりまとめ担当
- 「画像診断機器関連産業2011」…継続発刊決定
2006年：関係団体図が好評で他部会へも展開
http://www.jira-net.or.jp/commission/system/05_link/link.html
2007年：システム部会の担当テーマが中心
2008年：医療IT化を行政の施策を軸に解説
2009年：画像医療におけるIT化の進展を概説
2010年：5年目の総集編
2011年：新成長戦略への対応としての画像医療IT

2010年度事業計画と実施 まとめ

- システム部会の広報活動としてホームページ運用担当
- ITEM2011のJIRAブースシステム部会分の運営準備
標準化普及推進のパンフレット作成支援と配布
JIRA会報投稿記事の別刷り作成と配布
- 医用画像システム部会主催の勉強会計画と運営→本日
- 展示/カンファレンス支援： 必要に応じて行う。
- 「画像診断機器関連産業2011」作成に中核的参画
- JIRAとの連携： ワークショップの実施の見直し

皆様のご協力をお願いします

